

MACF 礼拝説教要旨

2022年11月13日

【神の前に豊かになるとは？】

ルカによる福音書 12 章

12:13 群衆の一人が言った。「先生、わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください。」

12:14 イエスはその人に言われた。「だれがわたしを、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか。」

12:15 そして、一同に言われた。「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」

12:16 それから、イエスはたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作だった。

12:17 金持ちは、『どうしよう。作物をしまっておく場所がない』と思い巡らしたが、

12:18 やがて言った。『こうしよう。倉を壊して、もっと大きいのを建て、そこに穀物や財産をみなしまい、

12:19 こう自分に言ってやるのだ。「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ」と。』

12:20 しかし神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』と言われた。

12:21 自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」

前回と同じように、この例話の結論は箴言の中に書かれています。

箴言 1:19 利得をむさぼる者の道はすべてこのようだ。こうして、持ち主のいのちを取り去ってしまう。

箴言 4:23 力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。
(新改訳)

4:23 何を守るよりも、自分の心を守れ。そこに命の源がある。(新共同訳)

この農夫の心の中は自分のことでいっぱいでした。おそらく豊作だったわけですから彼は農夫としての才能があり、チャンスにも恵まれていて、確かに「できる人」だったのだと思います。

しかし、私たちのありとあらゆる出来事は「他者からのつながりや支援」によって実行可能となっています。そもそも、私たちのいのちも他者からの引き継ぎのような面があります。何をするにも他者からの支援がなければ、なかなかうまくいきません。

でも、この農夫は「自分の手柄」と考えました。

ですから「自分の蔵、自分の穀物」というふうに自分のものを自分のためだけに管理するような例えになっています。

イエス様は、この人のことを「自分のために富んでも、神の前に豊かになっていない人」といいました。

「神様への礼拝」「神様へのささげもの」そして「神が願っているように必要物を分かち合い、担い合う生き方をすること」が皆無だったからです。

与えられた全てのものは基本的には神からの預かり物として理解すること
決して「自分固有のもの」と決めてしまわないこと。取り去られることも前提に置いて考えること：

この農夫はあらゆることについて「わたしのもの」という意識が強すぎたのです。
互いに生きるためにこそ、そして、分かち合うためにこそ、それらを預かっていると理解し、必要に応じて分かち合う心を持つこと
この人には「神への感謝」、「人への祝福の分配」がまったく考慮されていない。

ここでイエス様が語られた「いのち」とは快活に明るく生き生きと内側を躍動させる力のことです。自分の握っている持ち物、財産だけでは「決して快活に、明るく、生き生きと内側を躍動させる力にはならない」ということなのです。

松下幸之助の言葉の中に

自分の金、自分の仕事、自分の財産。

自分のものと言えば自分のものだけれど、これもやっぱり世の中から授かったもの。
世の中からの預かり物である。

というのがあります。「世の中からの預かり物」という発想。これは謙虚さを生み出します。さらに、私たちは「いのちそのものさえ神様からの預かり物」と理解しています。

この農夫には、その部分が欠落していて、傲慢になり、貪欲になっていました。そういう人生は「虚しい」ものです。自己満足だけですから。

神に捧げ、人と分かち合い、支え合う中で明るく快活な心をもたらす命が、輝いてくるものです。

今のあなたのいのちは明るく快活な心を生み出していますか？

お金の心配、健康面への心配は、いつでもあるのだらうと思います。

でも、神様からの励まし、慰め、人との対話、共感によって得られるものは決して小さくないはずです。そこに目を留めながら進みたいですね

* * * *

MACF 礼拝映像はこちらです

<https://youtu.be/iLWUA3bvTug>